

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902330		
法人名	社会福祉法人 旭川福祉事業会		
事業所名	グループホームおおまち (旭橋通り)		
所在地	旭川市大町1条3丁目14番地の7 オークビル2階		
自己評価作成日	平成22年12月29日	評価結果市町村受理日	平成23年2月8日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172902330&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人が経営している老人福祉施設、老人保健施設、居宅介護支援事業所等との連携によりサービス利用への支援や援助、又、保育園とご利用者の交流会を行う等、旭川福祉事業会ならではの力を活かしたサービスの提供を行なっている。火災・災害時の救護対策として警備会社との契約によりご利用者の安全の確保を図っている。事業所の1階部分に利用スペースがあり、各種慰問会や行事等に使用し、活動の場も整っている。
又、レクリエーション時等もご家族にも参加して頂き、楽しく過ごして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

＜事業所の力を活かした地域貢献＞
認知症の人の理解や支援の方法を認知症サポーター(キャラバンメイト)の活動で、地域の大型スーパー職員向けに講習会を実施したり、近隣小学校の社会学習の研修の場として協力するなど事業所の持つ機能を地域の人々に還元している。
＜地域とのつきあいや連携＞
開設している場所は、商業地域で町内会の活動も難しい地域ですが、外出行事の際の手伝いや歌謡、会話等のボランティアの受け入れや老人クラブの慰問、小学生の社会学習の場の提供等で地元の人々との交流や連携が行われています。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ご利用者と共に喜びを分かち合い地域に安心と信頼を築く」理念を作り、朝礼時に職員全員で唱和し共有している。	事業所独自の理念をつくりあげ、毎月開催する業務推進会議やミーティングを通じて話し合い、理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の活動に参加し、又地域ボランティアや地域の学校とのつながりを保っている。	外出行事の際の手伝いや歌謡、会話等のボランティアの受け入れや老人クラブの慰問、小学生の社会学習の場の提供等で地元の人々と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校の「社会学習の場」としての受入れを行い、又「キャラバンメイト養成研修」修了者を置き、企業での「認知症サポーター養成講座」の開催や地域の方々への講座実施を予定し認知症への理解に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、随時利用者の状況・サービス内容・事業報告等を行い又、自己・外部評価への理解や結果報告を行い協議しサービス向上に努めている。	2ヶ月毎に運営推進会議が開催されている。また、利用状況や「小学校の人的物的環境バンク」の教育活動の協力体制等について具体的に話し合っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時、連絡・報告により連携を取り合い、質の向上に努めている。	市や包括支援センター主催の研修会等の参加や日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深めるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止委員会」を設置し、身体拘束に関わる事柄に留意し、又内・外部研修にて理解と身体拘束廃止に努めている。	身体拘束廃止委員会で管理者及び職員の認識の共有が行われている。また、緊急やむを得ない場合の処置についてマニュアル化されて実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止委員会」を設置し、委員が率先して虐待に関わる事柄に日頃から留意し、虐待防止を行っている。又、内・外部研修参加にて理解・実践に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内・外部研修参加にて理解・実践に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約・改定時は、必ず書面にて説明し、不明な点について説明し理解の上行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気付いた事を気軽に書いて頂けるように玄関に「意見箱」を、又「苦情窓口」「施設オンブズマン制度(第三者評価機関)」を設置し、意見がある場合は検討・改善を行っている。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付箱を設置している。また、法人全体でオンブズマン制度を採用し、第三者の意見等を重視している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な業務推進会議や随時、職員からの意見・提案を聞き、協議・改善を行っている。	人事考課制度を採用し、個別面談も実施している。また、毎月開催する業務推進会議やユニット会議で意見や要望・提案等を聞く機会を設け、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇格制度・研修や資格修得への助成を行い職員の意識・意欲向上に努め、働きやすい勤務形態(有給休暇の使用)に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアに応じた研修参加や定期的に内部研修を担当する事により自ら勉強し又、研修参加職員へ研修内容の理解やその方法を学習する事により、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等の研修参加時や他施設との交流・情報交換により、施設に応じたサービス向上へ役立てている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に本人より要望・意見等傾聴し、ご本人が伝えられない場合は家族に代弁して頂き、不安の無い共同生活のスタートとなる様に努めている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至る経過を聞いた上でご家族からの意見や要望・心配事等を傾聴・確認し、安心して生活して頂ける関係作りに努めている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームにおいても今まで出来た事柄を支援し自立した生活の継続に努めている。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「職員とご利用者」という関係ではなく、親子・孫というような馴染みの関係作りに努めている。		
19		○ 本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族等と会話を持つ事により「気軽にお願いが出来る・安心して頂ける」関係を構築することにより、ご家族へご利用者の願いや希望の代弁を信頼して受け入れて頂く関係作りに努めている。		
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り、馴染みの人との連絡や今まで利用していた地域の医療機関・お店の利用の継続に努めている。	銀座通商店街の七夕祭りや動物園見学、ボランティアとの交流や家族会との共催行事を通じて、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有の場において、交流しやすい環境整備、ご利用者の状態・状況に応じた交流の場の提供、お互いの良好な関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、相談等受け付けており継続した支援に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者本意の生活を支援し、ご利用者が望む生活環境作りに努めている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、スーパーでの買い物や外食、動物園見物やりんご狩り等戸外に出かける機会を多く持てるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「利用者台帳」「アセスメントシート」等により全職員把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に状況・状態の把握に努め、職員間での情報の共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを行い、現場からの意見や提案、統一したケアの実践を基にして介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や思いを反映するようにしている。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は情報を共有し易い様簡潔に分かりやすく工夫している。実践を基にした介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時々の状況・状態変化に応じた対応、サービス提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅生活では難しいと思われる地域のボランティアや小学生との交流やお祭りへの参加、慰問受入れ等行い楽しみのある生活を支援している。又近くに商店があり徒歩で買い物に出掛けられる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居以前に利用していた医療機関を利用して頂いている。又ご本人やご家族の要望に応じた対応を行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、内科・歯科医師の往診や訪問看護師の利用で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療機関への受診・往診時は心身状態の情報提供を行い、緊急時等は常に医療機関の看護師等との連絡体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は頻繁に面会し、情報交換を行い出来る限り早期退院して頂けるように努めている。又、日頃からかかりつけ医等との情報交換を行い双方の関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針については契約時に文章・口頭にて説明を行い、その様な方向に至った場合、かかりつけ医・薬剤師・家族・本人・施設管理者との話し合いを行い支援に向けての取り組みを行っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関や職員への連絡体制作りを行っており、緊急時に備えている。又、救命講習の受講も随時行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。「災害時要援助者利用施設」に指定されており災害時の避難場所も指定されている。又、警備会社との契約により、火災時等の救護体制作りを整備している。	スプリンクラーの設置が完了している。また、年2回避難訓練の実施や警備会社との契約で緊急時の対応が行われている。	職員会議等で利用者本人が安全に避難できる方法を身に付けられるよう検討が行われているので、その実践に期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人に応じたケアを行っており、言葉掛けにも注意し、内・外部研修においても再確認・自覚を持つようにしている。	虐待防止や身体拘束廃止委員会を通じて研修会を実施し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が何事も言いやすい環境、ご自身で判断・決定して頂けるような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の予定はあるが、状況や状態・希望に応じて変更や中止を行いストレスの無い生活支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その時々々の予定に応じたおしゃれや、自ら判断が困難な方等への身だしなみや季節に応じた援助を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下拵えを職員と共に行なったり、後片付けのお手伝いを共に行なっている。又普段と雰囲気を変えて行事食や職人による実演・食事会を行い、職員と共に楽しい食事をしている。	給食委員会で、毎日の調理や食事の準備等楽しんで行えるよう検討されている。また、誕生会等でのイベント食(にぎり寿司や手打ち蕎麦等)も実演している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による栄養管理を行い、個人個人の食事や水分摂取量の確認・摂取量に応じた支援介助を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており、状態に応じた治療や対応を行なっている。又、口腔ケアについての研修会を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況の把握を行い、その方のパターンに応じた声掛け・介助を行ないトイレでの排泄に努めている。又、出来る限りオムツ等の使用を控え通常の下着の利用を支援している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の少ない方への飲み物の変更や工夫、野菜等食物繊維の摂取向上の為の工夫や試行錯誤を行ない便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日々の状況・状態に応じて入浴時間・曜日変更を随時行なっている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、拒否の強い利用者にも個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の様子を伺い、状態に応じて居室での休息を促したり、日々の睡眠リズムが安定する様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「薬剤情報」は常に確認できるところに配置し、一人ひとりの薬の内容の把握に努め、内服薬の変更時等は情報共有を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人の生活歴や趣味、特技に応じて役割を持ったり、手作業等を行いメリハリのある生活を支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換に散歩へ出掛けたり、季節に応じた外出行事やショッピングを行ない、地域のボランティアの方々にも協力していただいている。	銀座通商店街の七夕祭りや護国神社祭、旭山動物園や北鎮記念館見学等地域のボランティアの協力を得ながら戸外に出かけられるよう支援している。	
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により買い物に出掛け自身のお金で支払いをして頂き、金銭の自己管理の支援を行い、又ショッピングでの支払いの際も出来るだけ自ら支払いをして頂くように支援している。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は常時使用可能であり、職員が代わって連絡を取ったり、手紙の受け渡しを行なっている。		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の応じた装飾やご利用者が個人や協働で作った作品を展示し作品の出来栄に共感されている。ご利用者にとって不快となる様なものは取り除いている。	1フロアで2ユニットのグループホームで、共用空間は広く椅子やソファが配置され、居心地よく過ごせるように工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場では好き好きに利用していただき、交流の場であったり、職員との会話の場、気ままに過ごして頂く場、等思い思いに過ごして頂いている。		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みの物や使い慣れた物を置いたり使い易いように備え付けの寝具の変更等行なっている。	居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全てバリアフリーとなっており、各トイレも車椅子で自走しても楽に出入り出来る広さになっている。又全ての利用箇所に手摺りを設置し、自立支援を図っている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームおおまち(旭橋通り)

作成日: 平成 23年 1月 9日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	36	他の業務中、ご利用者からの要望等があった時、忙しい口調になったりする場合がある。	ご利用者を尊重し、適切な声掛け・返答を行なう。	個人個人の状況・状態に応じた確・適切な声掛けを行なう。	3ヶ月
2	41	食材により食事摂取に偏り(嗜好による)がある場合がある。	出来るだけ残さず摂取して頂く。	個々に応じた調理の工夫により、食べやすく調理し摂取して頂く。	6ヶ月
3	27	個別記録が実践に活かされていない場合がある。	個別記録を実践に活かす。	個別記録について職員間で再確認し意識統一を図り実践に活かした記入に努める。	6ヶ月
4	47	薬の内容や副作用についての理解が出来ていない場合がある。	使用している薬の理解に努める。	「薬剤情報」の確認や情報交換・伝達により確実に薬の理解を行なう。	3ヶ月
5	49	行事以外での外出の機会が少ない方がいる。	気候のよい日は短時間でも外出して頂くように努める。	体調や状況に留意し、外出して頂くように声掛けに努める。	5月中旬から9月まで

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902330		
法人名	社会福祉法人 旭川福祉事業会		
事業所名	グループホームおおまち (大雪通り)		
所在地	旭川市大町1条3丁目14番地の7		
自己評価作成日	平成22年12月29日	評価結果市町村受理日	平成23年2月8日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172902330&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人が経営している老人福祉施設、老人保健施設、居宅介護支援事業所等との連携によりサービス利用への支援や援助、又、保育園とご利用者の交流会を行う等、旭川福祉事業会ならではの力を活かしたサービスの提供を行なっている。火災・災害時の救護対策として警備会社との契約によりご利用者の安全の確保を図っている。事業所の1階部分に利用スペースがあり、各種慰問会や行事等に使用し、活動の場も整っている。
又、レクリエーション時等もご家族にも参加して頂き、楽しく過ごして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者とスタッフは理念を意識し日々反映させている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の加入は継続している。地域の行事に参加したりボランティアや小学生との世代間交流を定期的に行い、廃品回収にも協力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者やスタッフは地域の研修や会合に参加し認知症の人の理解や支援の方法の啓発に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、事業報告や行事報告をし委員の方から意見を伺い改善に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の職員の参加の目的はないが研修会の参加によりサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時ミニ研修会等で理解を深めている。危険防止の為止むを得ず玄関に施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で高齢者虐待防止法について学び職員同士で意識し虐待を行なうことのないよう防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んだことを他の職員に復命することで理解し必要時には支援出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書の内容を口頭にて説明し理解・納得して頂き契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様やご家族様の会話から理解に努めユニット会議で共有している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の業務推進会議や日常の申し送り時に意見や提案を聞き反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	徐徐にはあるがスタッフの想いをくみ取り働きやすい環境に整備されて来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加したり毎月担当職員による内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会の参加や他のグループホームとの交流する機会は少なく良い面を取り入れる取り組みをしているとは言えない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりした居場所作りをし、ご本人が困っていることや要望等に耳を傾け理解をし関係づくりに努めている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていること、不安なこと要望等を受け止めて進めている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフでご利用者様の状態や状況を確認し早急か否かを判断し支援している。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活で洗濯物やおしぼりたたみ、後片付け等を一緒にすることで共に支え合う関係を築いている。		
19		○ 本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様面会時にご利用者様の様子や言葉をお伝えし手作りおやつ時には一緒に参加して頂き本人を共に支えている関係を築いている。		
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないようにホームに遊びに来て頂いたり外出支援に努めている。		
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や難聴により聞き違いで険悪な状態になることもあるため職員が仲裁に入り孤立しないように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても状態を確認するなどフォローしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向に努めカラオケ、レク、行事等の参加が出来る様取り組んでいる。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日の会話の中から生活歴を聞かせて頂いたりご家族様から情報を頂けるよう努力している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録で確認し又ご本人の有する力をスタッフ間で共有し現状把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフでカンファレンスを行いご本人やご家族様の想いや意見を聞きプランに反映させている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個人記録に記入しスタッフ間で情報を共有しながらご本人に合わせた支援をしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院はご家族の負担にならないように配慮し更に要望には柔軟に対応出来るよう支援している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんを受入れカラオケや会話を通じて接点が増えるよう努めている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望する病院を受診し結果は電話や面会時に報告している。又往診を受けられている方もいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している医療機関の看護師が定期的に健康チェックを行っており更に体調不良時の連絡体制も整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時はご家族様と連絡を取り頻繁に出向き病院関係者より状況を把握し早期に退院出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応については事前にご家族や医療機関とで話し合いをもつようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々に応急手当の講習を受けたり事業所ではマニュアルを作成し周知徹底している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災訓練を行なっているが地域と協力体制は不十分である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉がけをし、又プライバシーを損ねない言葉や態度で傷つけない対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が納得しながら暮らせるようにし、又自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを大切に体調に合わせて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定される方もあり、季節に合った身だしなみやおしゃれが出来る様に支援している。訪問理容を受け入れています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的にイベント食を取り入れて楽しんで頂き体調に合わせて下拵えや後片付けを一緒に行なっています。		
41		○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1日1,000ml以上摂取して頂けるよう努めています。又バランスの取れた食事と体調に合わせた食事形態にしています。		
42		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた口腔ケアを行うがいが困難な方には口腔ガーゼを使用し清潔保持している。		
43	16	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方の排泄パターンを把握し失敗しないようトイレ誘導を行い自立に向けた支援を行っている。		
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日に必要な水分量を摂取し困難な方には寒天ゼリーで対応し予防に取り組んでいる。		
45	17	○ 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日課表で入浴日が決まっております希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんで頂けるようには至っていません。		
46		○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのその時の状況に応じて休憩や睡眠を取って頂いている。		
47		○ 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬の状況を把握し職員が責任を持ち服薬介助を行なっている。又臨時薬は口頭で伝達したり介護ノートで確認している。		
48		○ 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に合わせ食器洗いや食器・テーブル拭き、洗濯物、おしぼりたたみを行なっている。又レクリエーションをしホーム喫茶では好きなものを選んで頂き楽しむことで気分転換をしていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	動物園、りんご狩り、ショッピング、外食など外出の支援を行っている。又ご家族の協力を得外出される方もいます。		
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額を自己管理し安心感を得られている方もいます。ショッピングや外食時の支払いは自分で出来るように支援している。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には本人自らが電話をかけることが出来るように支援している。		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室は皆さんで座れるようソファの位置を工夫し居心地良く過ごせるよう努力しています。又四季を感じて頂けるよう季節に合った物を飾り更に利用者と一緒に作品を作り展示しています。		
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファは1人～3人掛けを置き日中ゆっくり過ごして頂き気の合った方達で思い思いに過ごせるように居場所の工夫をしています。		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し使い慣れた物を持ち込んで頂き居心地良く過ごせるように努めています。		
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札を付け自分の部屋がわかるようにしたり、トイレの手摺りを増やすことにより安全に移動できる環境作りをし自立した生活が送れるように工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームおおまち(大雪通り)

作成日: 平成 22年 12月 29日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議では利用者様の状況や行事等の活動報告の話し合いをしているが内容についての職員への浸透がない。	会議内容を職員に報告しサービスの向上に活かすように努める。	会議内容をユニット会議で報告する。	2ヶ月
2	35	ご利用者様が安全に避難出来る方法をきちんと身につけていない。	ご利用者様の安全を守るため一人ひとりが知識を身につける。	消防署の立会いを依頼しアドバイスを受け災害に備えたい。	12ヶ月
3	6	リスクマネジメント委員会の開催が滞っている。	事故分析することにより事故の未然防止に努める。	定期的にリスクマネジメント委員会を開催し事故分析しながら再発を防ぐ。	6ヶ月
4	34	急変時の対応についてマニュアルはあるが実際には戸惑ってしまう。	急変時(特に夜間)に戸惑う事無く素早く対応出来るようにする。	マニュアルに基づき定期的にユニット会議で勉強し実践に生かせるよう取り組んで行きたい。	12ヶ月
5	47	薬に対する知識が不十分なスタッフもあり、その為内服薬のミスが懸念される。	一人ひとりが薬の正しい知識や目的を理解する。	一人ひとりが薬の説明書等に目を通すなどし、理解するように努める。	6ヶ月

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。